


受賞者氏名	尾川 浩一	
所属	理工学部	
受賞年月日	2021/10/14	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	日本医用画像工学会	
受賞名	功労賞	
受賞(研究)内容詳細	<p>この賞は日本医用画像工学会に対して大きな貢献をした会員に授与される賞です。この学会の設立は1978年ですが、設立当初の1981年より学会員となり、以後41年間にわたって本学会でのさまざまな活動に貢献してきました。1993年からは幹事、編集副委員長に就任し、学会誌である「Medical Imaging Technology」の編集業務に携わるとともに、科学研究費の出版補助を受け、過去に刊行された全ての論文誌の遡及PDF化の事業をおこないました。過去の論文誌は紙媒体でのアーカイブしか存在しなかったために、全ての論文をスキャナで画像としてスキャンしてPDF化を実現しました。また、論文のアブストラクトは全てOCRによってドキュメント化して語彙検索なども可能なデータベースを構築しました。さらに学会のホームページから小金井キャンパスの尾川研究室のサーバにリンクをはり、研究論文は法政大学から発信していました。現在は、これらのコンテンツはJSTの学会論文誌のサーバに置かれ広く公開されています。また、2000年からは常任幹事となり、同時に編集委員長として7年間にわたり論文誌の充実に尽力してきました。その後、2009年からは医用画像工学の発展の基礎となる書籍の発刊を学会の事業と位置づけ、「医用画像工学ハンドブック」の編集委員会委員長となり2012年に全777ページの書籍を日本医用画像工学会より刊行しました。また、2008年には第27回日本医用画像工学会大会を小金井キャンパスで開催し非常に多くの会員の参加で成功裡に終了しました。さらに2012年からは日本医用画像工学会の副会長、2016年からは会長に就任し、その後4年間にわたり責任者として学会運営を行いました。この間、学会の法人化に取り組み、2020年からは一般社団法人日本医用画像工学会という形で運営することができるようになりました。学会の社会的責任は重く、アカデミズムとして得られた様々な研究上の知見を広く世界に発信することはもちろんですが、種々の医療政策に積極的に関与し、医学の診断や治療において学会が具体的に貢献することも求められる時代となってきました。このような時代の流れに対してリーダーシップをとってきた功労が認められ今回の受賞に至りました。</p>	